

文化史・文化理論の再構築

研究代表者 齋 藤 陽 一

1. プロジェクト内容概略

今年度も、まずは、個人の研究がこのプロジェクトの根底にある。それも、実は伝統のある文学研究がなによりもこのプロジェクトを支えている。ドストエフスキー、ワーズワス、シュトルム。さらには、フランスの「百科全書派」。この無秩序に見える研究対象が、このプロジェクトの強みである。つまり、各国文学の専門家が集まって、互いに研究の動向について情報を交換してきたのである。

また、こうした伝統的な研究の方法論を、映画や20世紀に書かれた戯曲、さらには、ゴジラやBL等といった20世紀の文化現象に応用して、成果を挙げてきた。この古典研究と現代文化研究の接触が、文化史・文化理論の再構築へと至る道なのである。

2. 参加メンバー

齋 藤 陽 一（代表）

石 田 美 紀

猪 俣 賢 司

佐々木 充

番 場 俊

逸 見 龍 生

三 浦 淳

3. プロジェクトの進捗状況

○著書

単著

- ・ 番場俊『ドストエフスキーと小説の問い』水声社, 2012年12月

共著

- ・ 石田美紀
「痕跡・記号・運動 実写フィクション映画の存在論」, 大浦康介編『フィクション論への誘い — 文学・歴史・遊び・人間』世界思想社, 2013年1月, 106-123頁。
「オートバイによって映画は何を描くのか 1950年代・60年代のオートバイ映画」, 栗原隆編『感情と表象の生まれるところ』ナカニシヤ出版, 2013年3月, 194-212頁。
- ・ 番場俊
「他者の苦しむ顔を見る —— ドストエフスキー, ホルバイン, 写真」, 栗原隆編『感情と表象の生まれるところ』ナカニシヤ出版, 2013年3月, 178-193頁

○論文

- ・ 石田美紀
「フィクションの力 連続テレビドラマ脚本家・渡辺あや」, 『ユリイカ』第44巻5号, 2012年5月, 156-162頁
「成熟と自由 遠い隣人から省みるやおい・B Lの現在」, 『ユリイカ』第44巻15号, 2012年12月, 126-130頁。
- ・ 猪俣賢司
「鉄道線と銀幕の風景 — ゴジラの足跡を辿る東京1954年 —」, 新潟大学人文学部研究紀要『人文科学研究』, 第132輯, 2013年3月, Y19-39頁。
- ・ 齋藤陽一
「井上ひさしのチェーホフ〜『ロマンス』をめぐって〜」, 新潟大学人文学部研究紀要『人文科学研究』, 第131輯, 2012年12月10日, Y47-68頁

・佐々木充

「ワーズワスのダヴ・コテッジ・ガーデン」, 新潟大学人文学部研究紀要『人文科学研究』, 第131輯, 2012年12月10日, Y 69-106頁

- ・Tatsuo HEMMI, Le temps métaphysique et le temps philosophique — à propos du supplément éditorial de l'article AME, Recueil d'études sur l'Encyclopédie et les Lumières, n2, mars 2013, pp.41-56.

○翻訳と解説

・三浦淳

2013年2月 日本シュトルム協会(編訳)『シュトルム名作集VI』(三元社, 2013年2月, 426ページ)の, 「セレステ 空想物語」(289-292ページ)と「テーオドル・フォンターネ」(323-335ページ)の翻訳, および, 「初期散文」の解説(288ページ)を担当

○新聞への寄稿

・三浦淳

2013年3月15日 新潟日報文化欄(第26面)に, 「『命をつなぐバイオリン』に寄せて 戦争に翻弄される悲しみ 東欧の少年少女 音楽を通じた友情」を寄稿

○報告

・佐々木充

国際シンポジウム「〈声〉の制度 — 継承・侵犯・障害 — PART2」

日時 2013年3月8日 午後2時-6時

場所 新潟大学総合教育研究棟D棟1階 大会議室

主催 人文学部研究プロジェクト「〈声〉とテキスト論」(代表 高木 裕)

新潟大学コアステーション学系附置〈声〉とテキスト論研究センター

第2セッション(16時-18時) 研究発表

佐々木充(新潟大学人文学部教授): 「〈声〉はどこへ行った? — 近世儒学・

国学における〈声〉の消失と回復—

- ・逸見龍生「『百科全書』におけるジェームズ医学事典の利用形態」百科全書研究会, 2012年6月30日, 慶應義塾大学, 招待講演
- ・逸見龍生「『百科全書』の哲学・言語・政治」日仏哲学会2012年秋季研究大会・特別シンポジウム「デイドロ哲学再考: 生誕300年を迎えて」2012年9月8日, 東京大学文学部, 招待講演
- ・Tatsuo HEMMI, "Le temps métaphysique et le temps philosophique — à propos du supplément éditorial de l'article AME de Diderot" 日仏啓蒙・『百科全書』研究集会2012年9月29日(土)・慶應義塾大学, 招待講演
- ・逸見龍生「形而上学の時間と哲学の時間——『百科全書』の一項目に関する生成論的解釈学の試み」日本フランス語フランス文学会東北支部大会・特別シンポジウム「ルソー, デイドロ生誕300年にあたって」2012年11月3日(土), 岩手大学・岩手県立大学共同主催, 招待講演
- ・逸見龍生「『百科全書』の生成論的解釈学の試み」中央大学人文科学研究所公開研究会「『百科全書』の生成論的解釈学の試み」(2013年1月16日, 中央大学)
- ・Tatsuo HEMMI, "Le temps métaphysique et le temps philosophique — Essai de l'herméneutique génétique sur le supplément éditorial de l'article AME", Chantiers des Lumières, L'Encyclopédie à l'âge de la numérisation, 28-29 mars 2013, Université Paris Denis Diderot, 招待講演